岡山大学広報

いちょう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE





「学都構想」は千葉喬三、森田潔、槇 野博史学長が提唱、止まることなく推 進されてきました。私は、それらがこ れからもゆるぎなく持続的に発展し続 けることを願っています。そして、その ために必要なのが「不易流行の経営 改革」。「不易流行」は、俳聖・松尾芭 蕉が「奥の細道」の旅をする中で体得 した俳諧の理念だといわれています。 時代が変わろうとも不変なもの・変え てはいけないもの(不易)と、時代の 変化、社会の要求や期待に応え、変 化させていかねばならぬもの(流行)。 岡山大学で示すなら不易とは本学に 関わる過去・現在・未来の人々(マル チステークホルダー) の多様な幸せ (well-being)の実現。流行とは社会 情勢を見極め、国立大学法人として 政策や地域の思いを先取りし、先導 する改革・人材育成・教育研究だと 認識しています。

人は長い人生において、学校や会社、 地域など様々な組織に属します。私 自身、中高一貫校でしたから母校へ の愛着はひとしおです。同じように青 春時代を岡山大学で学び、岡山大学 病院に勤め、今こうして岡山大学に身 を置いていることに誇りを持って来 す。「岡大に行って良かった」。卒業後 の人生においてもそう思えることが大 切です。そうした母校への想い、帰属 意識の醸成は本学の発展に欠かせな いものであり、そのためにも教職員 の「学生愛」が放たれる場づくりにも 努めたいと思っています。

若かりし頃から内視鏡治療やロボット手術の導入、新しい手術法の研究・開発に率先して取り組んできました。前立腺がんの治療においては、日本初の遺伝子治療に関わることもできました。その当時は「岡山大学病院を前立腺がん治療のメッカにする!」そんな熱い想いを胸に医療人としての不易を大切にしつつ、新しい治療法の開発に挑んでいました。

◀内視鏡手術支援ロボット「ダ・ビンチ」の前で。「患者さんのために『誠を尽くす』」という決意のもと、研究・診療を続けてきた。

da Vincis

プライベートの私

那須保友新学長に聞く

Message from the New President NASU Yasutomo

この胸にいつも「岡大愛」。不易流行を礎に、誇りと希望の学都へ。

「もっと学生の近くで、もっと学 生と接したい |。学長になって 改めてそんな想いが込み上げ ています。学生や教職員はも ちろん、岡山大学に関わる過 去・現在・未来、すべてのス テークホルダーの物心両面の 幸せ(well-being)を追い求め ること。そのためにも私は、愚 直に言い続ける。考え続ける。 行動し続ける。それが岡山大学 を発展させるための源泉だと 思っています。岡大LOVE、学 生LOVE、教職員LOVE、岡山 LOVE。これからの4年間「岡 大愛|を胸に「誇りと希望の学 都」を目指します。

well-being) 物心両面の幸せ

縦割りになりがちな大学組織を変え たいと思います。予測困難な現代に おいて、1つの部署だけが決まった方 法で行う「ウォーターフォール型」は対 応できなくなっている。複数の部署が 協力して、柔軟に進める「アジャイル 型」の組織作りが重要です。昨年度ま で研究担当理事として改革を進めて きた結果、効率の向上、帰属意識の 醸成、達成感の獲得、対話の推進等 の効果が得られつつあり、国や地域 からも高い評価を得ています。今後 はこれを全学に拡充し、学生や教職 員が持てる資質・能力を十分に発揮 し、活躍できる組織風土をともに作っ ていきたいと思います。

アジャイル型へウォーターフォール型から



那須 保友 NASU Yasutom

1957年、愛媛県松山市出身。愛光中学校・高等学校、岡山大学医学部卒業。同大学院医学研究科修了。1996年か6米国ベイラー医科大学に研究員として留学。帰国したのち現在に至るまで岡山大学に勤務。2019年より研究担当理事として、若手研究者の支援や研究環境の整備を推進してきた。専門は医学(特に尿路性器悪性腫瘍、泌尿器内視鏡外科学、医学英語教育など)。

▼広島県尾道市と愛媛県 今治市を結ぶ「瀬戸内しま なみ海道」をサイクリング。 県外まで出かけることも珍 しくないんだとか。



15年を超える大の自転車好きです。 休日には児島湖の湖畔をサイクリング。お気に入りの場所でコーヒーを 入れて、考え事をしたり読書をしたり

する時間がリラックスできますね。そういう時にふとアイデアが浮かんできたりします。最近は自宅でも自転車に乗れるよう、バーチャルサイクリングシステムを導入することを計画しています。

ルとなる「共育共創コモンズ:愛称 先生が監修しました。 であり、本学特別招聘教授の隈研吾 貢献する木質系材料CLTを活用。 カーボンニュートラル・脱炭素社会に OUX(オークス)」が完成しました。 令和5年1月、岡山の新たなシンボ ・施工監理を世界的な建築家



300人を収容できる 大講義室 2F 機密性の高い 共同研究スペース 2階へと続く 大階段 オープンな 共同プロジェクトのための 1F 打合せスペース

「OUX(オークス)」に込めた3つの想い

愛称提案者:学務部学務情報システム開発室

田邊 光伸さん

- ●間山大学の「OU」と、共育・共創の交流 を表す「X」。
- ②Optimal(最良・最適な)UX(ユーザー エクスペリエンス)を提供する場。 ③「オーク(樫・檜)」や「大楠」を連想させ、
- 岡山のシンボルツリーたる大樹のイメ ジ。3つの想いを愛称に込めました。

I named!

に貢献する木造建築 カーボンニュートラル・ 炭素

想いを語る。 た結果、 木の可 が 界の最先端技術をカタチにすること 先 生 私の想いに岡山大学が共鳴してくれ 木造建築技術の最先端、 が開 教授 きました。 |は「『共育共創コモンズ』で日本の 成披露式典では、 トの時代でしたが、これからは '能性を追及する時代' (以下、 催された。 今日の完成に至りました」と 隈先生)による特別講 20世紀は鉄とコンク 完成にあたり、 隈研吾特別招 すなわち世 そんな 隈

脱炭素社会に貢献する、 的に活用する機運が高まっている。 やSDGSの観点からCLTを積極 木質系材料。カーボンニュートラル 方向が直交するように積層接着した い材料として、 Timber) はひき板を並べた後、 れたCLT (Cross Laminated 今 「共育共創コ 国内森林資源の蓄積 モンズ」に活用 環境に優し 繊

原寸大の教材「OUX」で最先端 木造建築技術を学んでほしい

中高層の木造建築を目の当たりにし てきた隈先生は、日本国内における 木材により作られた。 LT建築の可能性を長く模索して 国のヨーロッパでCLTを使った 「回使われたCLTは、全て国産 木と岡山県のつながりについて 木材産業先

> す」と熱く語る。 らできる。これは画期的なことなんで しいです。でも、 リー 隈先生は、 大空間ですが、 しい。この大講義室は18 m×21・6 本一。言うなれば、 木造建築を牽引するリー トでは実現不可能で、 「岡山県はCLTの生産が 柱が無い。これはコンク 軽くて丈夫なCLTな 岡山県こそ日本 -ダーにふさわ 鉄骨でも難 m

木造建築に関する最先端の教育 特別講演を締め括った。 ードしていく。

を送り、 皆さんが時代をリ 対する責任がある。 かその主人公になってほしい」とエール 向けて「建築は楽しいけれど、 話 できる場。その象徴ができあがった」と す隈先生。 最後に聴衆の学生たちに そしてこれからは 使う人に どう

KUMA Kengo 岡山大学特別招聘教授

PROFILE

1954年生まれ。東京大学大学院を修了し 1990年、隈研吾建築都市設計事務所設 立。自然素材を生かした建築が特徴で、日本建築学会賞、フィンランドの国際木の建 築賞などを受賞。東京オリンピック・パラ リンピックのメインスタジアムとなった新 国立競技場の設計にも携わった。2020年 より岡山大学特別招聘教授。



完成披露式典では、2階の大講義室で隈研吾特別招聘教授による特別講演が開催。岡山の新たなシンボルとなる木造建築「OUX」の設計趣旨、新建材CLT(Cross Laminated Timber)の 可能性など、世界各地に建てられた『隈作品』を紹介しながら建築や教育への熱い想いを語られました。



1階は「共創ラボ」。オープンな共同プロジェクトから機密性を高く保てる共同研究まで、フレ キシブルに対応できます。さらには海外からの招聘教授、滞在研究員が学生らとともに研究 できるスペースとしても活用します。

[右]本学の卒業生でもあるナカシマ ホールディングス株式会社の中島博会 長から多大なる寄付をいただきました。 同社が世界トップシェアを誇る船舶用 スクリュープロペラが寄贈され、大講 義室の壁に設置されています。 [右下]ガラスの衝突防止には特徴的

なOUXの窓割をかたどった木材を使用。 [下]天然素材の竹を用いたルームフ









究者の声を

ラムに参加 に短期プログ 2022年度 ラムを提供。 す。長期プログ 号取得を目指

た若手女性研

定を締結しました。協定に基づき、 達成のための科学技術イノベーション 月に、SDGs (持続可能な開発目標 ム〟と開発途上国の若手研究者が博士 共同研究・研修を行ゔ短期プログラ 発途上国の若手女性研究者を受け入れ 大学としては世界初となる包括連携協 (STI for SDGs)の人材育成に向けて 本学とUNCTADは、2020 车 1 開

岡山大学 国連貿易開発会議)

連携の取り組み

イノベーション人材を育成!

ても を開 機会と考え参加しまし えています。 ある顕微鏡を利用 滞在中には岡山大学 親切 始するのには絶好の

にも参加してもらいたいと思えるとて とエジプトで共同研究を進めることで、 も有益なプログラムでした。 ことができました。研究室の学生と一緒 (期的な協力関係を築いていきたいと 研究に取り組みましたが、 今後の研究に繋がるデータを得 で勤勉でした。 他の意欲的な女性研究者 帰国後は日 彼らはと 本

▶研究室のメンバーと一緒に

中性子医療研究センター 黄鵬研究准教授 DNA修復たんぱく質の デル生体としてDNAの修復機構を研究。 、/ ムセンターに博士研究員として着任し、、博士号を取得。 ズウェイル科学技術都市 (研究准教授はがん治 (在を調べることです。 在は助教として勤務する。 略歴/ドイツのハイデルベルク大学で修士 受入研究者/ 私 の 研 究 の 目 的 は



療の専門家で、

共同研究



ズウェイル科学技術都市 ゲノムセンター Menattallah Gamal Elserafy 助教



[エジプト]

UNCTAD(国連貿易開発会議) クノロジー・ロジスティクス部門局長

Shamika N. Sirimanne

本学とUNCTADとの約3年にわたるこれまでの交流 に基づき、1月31日にシリマン局長の来学が実現。短 期プログラムに参加した若手女性研究者の研究成果 報告会をはじめ、特別講演、研究者・学生らとの交流 セッションなどが行われました。

Shamika N. Sirimanne博士(経済学)は、電子商取引 マース) やデジタル経済を含む科学、技術、イノベーショ ン(STI)に関する UNCTADプログラムを主導。UNCTAD の二大出版物である技術イノベーションレポートとデジタル 経済レポートに係る研究を管理している。









フィリピン大学マニラ校 公衆衛生学部

Fresthel Monica Marqueses Climacosa 准教授



■受入研究者/ ■受入期間/2022年11月15日~12月11日

卒業生。感染症に対する免疫について研究 学術研究院医歯薬学域 大原直也教授 プロジェクトに積極的に参加している。 (MD-PhD) デュアルディグリープログラムの ■略歴/フィリピン唯一の医学士-医学博士 国内外のさまざまなCOVID-19研究

た。ちょうど研究を 免疫学研究プロジェク れを解決するための トに参加していまし 患者数が多く、こ フィリピンでは結核

支援してくれる機関

御のために、今後も研究や教育を通して 原教授とは、結核などの病気の予防や制 和で素晴らしい都市で、とても良い環境 で研究を進めることができました。大 抗結核薬のヒントになると考えました。 位を突き止めており、私が研究を進める 結核菌に変異を加えることで、結核菌 を探しており、絶好の機会だと思い、本 に不可欠な酵素が働くために必要な部 プログラムに参加しました。大原教授は 山は豊かな文化と歴史に彩られた平

協力していきたいと思っています。

SDGs達成のための科学技術

学生たちと危機への対処 けるジェンダー研究を振 これまでのコロナ禍にお 法について議論し、フォー た。滞在中は中谷教授や 表の機会を持つためでし 、返り、論文の執筆や発 今回参加した目的は

ラム等での発表も行いました。岡山で執 かしていきたいです。 研究に、今回構築したネットワークを生 コミュニティを確立していくための議論や 予定です。訪日は初めてでしたが、最も 筆した論文は今後ジャーナルに投稿する ことには感動しました。帰国後は新しい 方まで言葉が通じなくても助けてくれた 感じたのは人々の|ubuntu (ズールー語で 。他者への思いやり 〟)」。若者から年配の

STI for SDGs



特別講演

技術革新の波を捉える

公平性のあるイノベーション

地域の方や高校生ら約100人が参加しました。 共育共創コモンズで開催され、本学学生・教職員

Babalwa Magoqwana 上級講師 ネルソン・マンデラ大学 人文学部

■受入研究者/ ■受入期間/2022年10月2日~11月2日

文明動態学研究所 中谷文美教授

センター創設ディレクターも務める。 ソン・マンデラ大学で女性・ジェンダー研究 リカ社会学会の会長を務めた。現在はネル テート大学で社会学の教鞭をとり、南アフ 学の博士号を取得。ローズ大学・フリース ■略歴/南アフリカのローズ大学にて社会

▶東京で行われたフォーラムでの発表

から寄せられた「私たち若者 性を訴え、「将来は皆さんにか 識し関わっていくことへの重要 社会で何が起きているかを認 などに惑わされず、 中に氾濫するフェイクニュース 質問に、シリマン局長は、世界 がすべきことは何ですか?」の ちにエールを送った。 かっています」と会場の若者た

り残され、その影響は開発途上国にとって深刻なものになるで 自動化による雇用の喪失により、貧しいコミュニティや国が取 と想いを語った。 ロジーにより誰をも排除しない持続可能な社会へと導くため 途上国の間にある格差をなくすために、また、これらのテクノ 識しています」と指摘。続けて「FTに関連する先進国と開発 うに役立つのか? 私はFTの倫理を決めることが重要だと認 機会を最大化することができるか? そして国際協力はどのよ しょう。そうした時、政府はどのようにしてリスクを最小化し、 格差はさらに露呈されます。FTの進歩、例えば、経済活動の 長は「COVID-19パンデミックのような危機によって、こうした ざる者の格差がさらに拡大すると懸念されている。シリマン局 可能性を示しているが、同時に、 たい。そして、こうした課題を大学でももっと議論してほしい に、国際社会が取り組むべきアイデアを提案できるよう努め ノロジー(以下FT)の発展は、 講演会の最後に、本学学生 人工知能(A-)や遺伝子編集など、近年のフロンティアテク 自発的に 開発を持続可能にする大きな テクノロジーを持つ者と持た



それぞれの個性が奏でる 美しきハーモニー。

感染症の影響で思うように練習もできない 年2月に開催されたユースアカペラコンテス 園」と称される人気TV番組。「めどれみ」は れた。ハモネプリーグは「青春アカペラ甲子 日本一を競う『ハモネプ』に挑みました_ モチベーションも徐々に上がって、アカペラ 中、暑い日も寒い日も屋外での練習を繰り返 トの結果が4位で…悔しい思いをしました。 の深田さんはこう振り返る。「実は2022 初の決勝進出となる。その道のりをリーダー 4名・清心2名) 」が「ハモネプリーグ で構成され、そのうちの一つ「めどれみ(岡大 して、様々な大会に挑戦しました。メンバーの 2022」の全国大会で決勝進出12組に選ば アカペラサークル「ビリペル」は複数のバンド 岡山大学・ノートルダム清心女子大学合同

ラの魅力、愉しさ、奥深さ、難しさ… 難しい。でもそれが『めどれみ』の強 ドは少ない。それだけに各メンバーの の切り替えが難しく、トライするバン リードボーカルが入れ替わる。転調 も得意のアニソンメドレーで掴んだ。 み」とメンバーは口を揃える。決勝進出 力量が問われる。「普通の曲より10倍 という珍しいパート分けで、どんどん メドレー。4人リード、4人コーラス 見るからに個性的な4人。アカペ 「めどれみ」の魅力は何といっても

す

る

活

躍

春ア 力 ~ ラ 甲 子

七 ネ プ で

決 勝 進 出 0) 快 挙

た 生 5

深。

じゃね』みたいな感じで カッケー!俺もいけるん いていると『ベーシスト サークルに入り、ベースパー ハマっていました。曲を聴 で、海外のアーティストに 直な言葉で語ってくれた。 ベースパートの深田さんは もともとアカペラが好き

自分が下手でへこむ時期もありましたが、時 現する楽しさを知ってどんどんのめり込んで で入部しました。アカペラはチームプレー。 クルに入らず、自分で勉強していました。そ どのファンでした。アカペラの印象は高度、そ 学生の頃から『ハモネプ』を欠かさず観るほ らかに語る。パーカッションの澤田さんは「小 レキシブルな楽器。それが魅力ですね」と朗 いきました」と話す。同じくリードとコーラ 屈なイメージでした。でも見学の際に先輩の リードとコーラスを担当する藤原さん れでもやらないと後悔すると思い、2年生 して難しい。そう悩んで1年生の時にはサー 楽器の迫力が感じられる。ある意味、声はフ スの木村さんは「アカペラは伴奏がないのに アカペラを聴いて、転調の面白さとか声で表 は「『アカペラ=合唱』と思っていて…正直退

かに深みのある魅力的な声だ。 それぞれが抱く想いを素 トを目指しました」と笑う。確

にはメンバーに助けてもらい、今は続けて良 藤は 世世大郎では大郎の

これからも期待したい。 ニーで、音楽の愉しさを伝える「めどれみ」に 勝の舞台ではクリスマスメドレーを披露。多 かったと思っています」と振り返る。 くの視聴者を魅了した。個性が奏でるハーモ 昨年のクリスマスイブにオンエアされた決

光がん治療法の実現を 副作用のない 目指して。

死(アポトーシス)することで、体内 綻すると、異常細胞が取り除かれる から取り除かれるが、その機構が破 数生まれる。こうした細胞は通常、自 方で働きが異常になった細胞も一定 働き、生命活動を維持しているが、 ことなく増え続け、やがては「がん」 ヒトの体内ではそれぞれの細胞が

せる新技術の開発に成功した。 ることで、光で狙った細胞を選択的に死滅さ アルカリ化する光感受性タンパク質を用い 同研究グループ(学術研究院医歯薬学域 至ってしまう。今回、中尾さんが所属するヰ となって体をむしばみ、最悪の場合、死に (薬)須藤雄気教授、小島慧一助教)は、細胞を

光

で

狙

0

た

細

胞

を

死

滅

さ

せ

る

新

技

祈

0

開

発

13

成

功

副作用を引き起こしてしまう課題がありま 治療法を実現できると期待しています」 滅させることができれば、副作用のないがん だ多くの薬は、がん細胞だけでなく周囲の正 としては、主に薬が用いられてきました。た 役立ちます。これまで細胞を死滅させる方法 胞を人為的に死滅させる技術は、がん治療に した。そのため目的の細胞だけを選択して死 常な細胞にも作用してしまい、投与によって その成果を中尾さんはこう説明する。「細

と薬学部を志望した理由を尋ねると、「一番 現在、中尾さんは大学院の1年生。もとも

広い世界で

山大学の

リ化でやったらどうなるんだろう?』というア

岡

ね」と大学の印象を語る。 ループに入ったのは大学3年生の時。研究 中尾さんが須藤教授、小島助教の研究グ

返していた中尾さん。 をテーマに実験を繰り ところが半年続けて も思っていた結果は 出てこなかった。「須 藤教授、小島助教と 話し合ううちに、 **『だったらアルカ**

研究グループの集合写真。前列中央が須藤教授、

その左が小島助教。後列中央が中尾さん。

みました」と話す。続けて岡山大学を選択し そのフィールドの広さに惹かれて薬学部に進 れてしまいます。でも『創薬』の世界なら、日 持っていましたが、医師や看護師が治療に関 らです。もともと医療従事者の仕事に興味を はやはり『創薬』に関わりたいという想いか 生の意識も高い。実際、授業の前にしっかり 本をはじめ世界の人と関わることができる。 与できるのは目の前の患者さんだけに限ら 論文を読み込み、貪欲に学ぶ人が多いです イメージがありました。附属病院もあり、学 た理由を尋ねると、「医療に強い大学という

理由だったそうだ。当初は細胞の「酸性化」 テーマに興味を持ったのはもちろんだが 「須藤先生の熱量に惹かれた!」のが最大の とは思わない。逆にうまくいく方が珍しいで きっぱり。続けて「前例のないことに取り組 やモノなど。研究はその手段、手法です」と それが研究の転機でしたね」と振り返る。 すから」と笑う。 んでいる自負があります。だから失敗は怖い イデアが浮かんできて…。まさに逆転の発想 新しいものを生み出す。それは概念や技術 中尾さんにとって研究とは?の質問に、

を抱いている。若き研究者として、その眼差 発し、医療技術の向上に貢献したいとの目標 しは未来を見つめている。 せ、将来的には光を用いたがんの治療法を開 感じてきた」と話す中尾さん。今回開発した を通して、薬物治療がもたらす副作用を肌で -光細胞死滅法」をさらにブラッシュアップさ 「これまで薬学部の授業や病院・薬局実習

中 to

尾*

新礼

総合研究科 1年 大学院医歯薬学

いちょ

OKAYAMA INNOVATION CONTEST 2022

「岡山イノベーションコンテスト」レポー



革新的なビジネスのアイデアや実践例を競う「岡山イノベーションコンテスト*」。岡山、備後の地から世界を変える起業家を誕生 させるべく始まった岡山イノベーションプロジェクトの一環で、今回が6回目の開催となります。2022年11月26日に開催された 最終審査会。総数102組の申し込みのうち登壇できるのは、2次審査までを勝ち残った16組のみ。わずか3分間のプレゼン時間 で、自らのビジネスプランをアピールします。岡山大学からは4人がファイナリストとして登壇! 当日の様子をレポートします!

※主催/中国銀行、山陽新聞社、公益財団法人サンマルク財団 OKAYANA INNOVATION CONT INNOVATION ROJECT

医療の発展にも貢献 状況を変え、 ヒト臓器チップでこの るを得ませんでした 法で薬の効果を調べざ 個 別



精度の悪い方 るために多くの動物を犠牲にして、かつ これまでは最終的に1つの薬を製品化す いわれる製薬試験市場に破壊的なイノベーション く薬の開発も可能となる。 さらに個人のiPS細胞を用いれば個人ごとに効 市場規模1.兆円とも

能を再現

薬剤の効果を適切に評価できる。

ど異なる臓器の

Physic

器チップ」を開発。 現実。 多くの実験動物が 心臓、肝臓、肺 活用した「ヒト臓 犠牲になっている いと、iPS細胞を に終止符を打ちた 者としてこの問題 製薬のために 薬剤の研

学術研究院医歯薬学域 **賢** 研究准教授

薬の開発方法に革命を

日本初の技術で ビジネスプラン部門 一般の部

※所属等は2023年3月時点のものです。



| ビジネスプラン部門 一般の部 入賞

地域と世界の医療課題を D X で 解 決 ー

学術研究院医歯薬学域

大学院教育学研究科 修士課程1年

もう着る服に迷わない

大学・専門学校生の部 ビジネスプラン部門

大賞

MASC賞

宮本 あゆはさん

平 山



テム「CeTrax」を 学技士である平 ていない。臨床工 理する「臨床工学 機器管理教育シス 山助教らは医療 技士」が配置され に医療機器を管 半数以上の病院

アルやオンライン相談にアクセス可能。蓄積され たデータを共有することで、人材の不足する地 で、医療機器台帳、点検支援、 操作方法のマニュ

> シャレさんであること。新しい服を買うことにコ SNSと違うのは、コーディネーターが一般のオ

ストをかけず、自分の服で「ダサい」から脱却し

き、学生はキャリア選択の場となるWin-Winの

「TsudoiVa」を提案。企業は採用コストを削減で

プランで地元就職に革命を起こす。

生が本音で接する機会が持てるキャリアカフェ

たいという

て世代の

潜在的な

ニーズに

応える。

も安全な医療を提供できることを目指す。 域全体の医療レベルの向上にも貢献。全国どこで

コメント

は既存の枠組 た課題を解決し、 海外や地域病院での経験の中で直面 持続可能にするために

コメント

報告できて嬉しいです! 今は専門学校

コメント

賞をいただけたことは貴重な経験にな 大きい舞台でピッチをさせていただき

りました。事業

ちょう並木9号で公言したリベンジを

何事もまずは挑戦して 変化が速く、正解が分 業化を決心しました。 みでは困難と考え、事 みようと思いますー からない世の中なので



開発。QRコード を読み取ること

ひ使ってください!

と」が実装された際はぜ を実行中。今回の受賞 えています。「こーでねー オニアとしての期待と捉 は岡大女性起業家パイ へのヒアリング

のコーディネー 他のファッション系 が提案してくれ とに、自分の服 無い…」宮本さん ネートに自信が ねーと」を提案。 るSNS「こーで を他のユーザ 自身の悩みをも 「自分のコーディ

脇田 康之亮 さん

経済学部4年



るにもかかわら 大生を求めてい ず、岡大生は県外 地元企業は

ギャップに課題 岡大生としてこの で就職している。



現に向かって進んでおり のご協力も得ながら実 については、地元企業様

ます。「TsudoiVa」を起点

を進めていきたいです。 に、地方のアップデー

岡山では2017年から「岡山イノベーションスクール」が始動し、起業支援の体制が受け継がれてきました。 本学からも学生や教職員が参加しており、2022年には過去最多の10人が参加しました! 本学では、イノベーションマネジメントコアベンチャー支援フィールドが窓口となり、起業に関する支援を行っています。 詳しくは、岡山大学研究推進機構のHPをご覧ください! https://www.orsd.okayama-u.ac.jp/kenkyusha/daigakuhatsu-venture/

続的に企業と学

度きりの合同説



岡山から地元就職に革命を!





尚 山大学のD & の取り組み

【グッドジョブセンターとは】

岡山大学では、2009年1月にダイバーシティ推進本部を設置し、 一岡山大学ダイバーシティポリシー」のもと

保育所運営などの次世代育成支援、障がい者雇用など、 女性研究者支援をはじめとする男女共同参画

構成員の多様性を高めるための様々な取り組みを推進してきました。

2009年4月に前身のグッドジョブ支援センターとして 今回は「グッドジョブセンター」にフォーカス。

最大限発揮できる職場環境をご紹介します。 障がいという個性に配慮し、一人ひとりが持てる力を 2021年4月にはそれまでの補助的な役割から

活躍の舞台を拡大するため改称。

ダイバーシティを推進してきました。 設置されて以来、本学の障がい者雇用と

a

環境

美化班

時間短縮が実現しました。



グッドジョブセンター には約70人の職員が所属 (2023年2月現在)。4つの班 のほか、各部局において勤務 する職員もおり、様々な 場面で岡山大学を 支えています。

成績表等の配布物の封入やカルテ整 理、実験補助等の事務作業を担当。多 くの構成員を抱える岡山大学を迅速か つ正確な業務で支えます。

鹿田キャンパスにおいて建物内やJ ホール周辺の清掃、事務作業等を担当。 津島キャンパスを飛び出し、 活躍の場を広げています。





農場班

広いキャンパス内の草木の整備や道路の

清掃、建物内の清掃等を担当。快適なキャ

ンパス環境を整えます。

農場での野菜・果物の栽培補 助、出荷、学内販売を担当。 農学部の教育研究を支えると ともに、岡大産農産物の生産に 貢献します。

(1)

配置の改良で 安全な作業環境に!

各部局から届く膨大な古紙を処分 することも業務の一つ。職員の発 案で古紙置き場の配置を改良し、 安全に作業ができるようにしました。

軽作業班





岡山大学ではダイバーシティ&インクルージョン(以下、D&I)をさらに推進するため、 11月の1カ月間を「D&Iデイズ」として設定。 今回は2022年11月に行われたD&Iデイズの様子をお伝えします!

D&Iを知ろう!

セクシュアルマイノリティ講演会

● 2022年11月8日開催



岡山で活動するLGBT当事者グループ 「プラウド岡山」の鈴木富美子氏、八田凜 子氏に「多様な性を知ろう~セクシュアリ ティと人権~ |というテーマで講演いただ きました。参加した学生・教職員は、多様 な性についての体系的な説明、当事者の 声や事例紹介に真剣に耳を傾け、その後 の質疑応答も活発に行われました。性に ついて正しい知識を知り、また、より身近 なこととして考えることのできる貴重な機 会となりました。

D&Iを体験しよう!

ボッチャ大会

● 2022年11月18日開催



パラリンピックの正式種目でもある「ボッ チャ」。目標となる白いボールに赤・青の ボールをいかに近づけるかを競いあうシ ンプルなスポーツです。当日はグッド ジョブセンターの職員や外国人留学生を 含む約50人が自熱した試合を繰り広げ、 大変な盛り上がりを見せました。参加者 からは、「スポーツの経験や男女関係なく 楽しめて良かった!」「国境を越えて交流 できてよかった!」などの感想が寄せら れました。

D&Iを考えよう!

メッセージボード

● 2022年11月1日~30日



D&Iデイズの期間中、各イベント会場や 学生が多く集まる図書館、一般教育棟な どに設置。「あなたが思うD&I」をテーマ にメッセージを募集し、学生や教職員か ら約40件のメッセージが届きました。

メッセージは下記URLで ご紹介しています。

https://www. okayama-u-diversity.jp /event/news/9512/



センター職員の声

農場班



岡崎 湧太 ಕん OKAZAKI Yuta 勤務歴:8年目

野菜や果物は傷つきやすいので、出荷 の時には丁寧に扱うように気を付けて います。テキパキと作業をして、たくさん 袋詰めができた時は達成感があります ね!一番嬉しいのは購入したお客さま に「ありがとう」と声をかけていただい た時。顔なじみのお客さまもできました。 満足していただける岡大産農産物をお 届けできるよう、これからも頑張ります!

センター利用者の声



齊藤 邦行センター長 SAITO Kuniyuki 農学部附属 山陽圏フィールド科学センター(FSC)

グッドジョブセンターとの関係は約10年前に 直売所の販売業務を委託したところから始ま りました。それから依頼する業務は拡大し、販 売場所も他学部や学外のスーパーへと広が りました。FSCだけではとても無理だったと思 います。我々としても働きやすいよう機器や施 設を整え、できるかぎりサポートしてきました。 今後も協働関係を築き、よりよい農産物を地 域の皆様へお届けしていきたいと思います。

事務・軽作業班



若井 雪花 さん WAKAI Kiyoka 勤務歴:4年目(旧姓:昼田)

手や身体を動かす作業が好きなので、 封入業務や清掃は自分に向いているな と感じています。約4年間働く中で嬉し かったことは、一人でできる業務が増え たこと。数の多い業務は大変ですが、終 わった時の達成感はひとしおです!保護 者の方や学生さんに届いた時を意識し て、折り目がズレないように折ったり、向 きを揃えて封入したりと工夫しています。





市田 亜希匡 註 ICHIDA Akimasa 学務部学務企画課教育支援グループ

学務企画課では学部学生の保護者の方 へ送る成績表や新入生の皆さんへの案 内の封入をお願いしています。本学には 約1万人の学部学生がおり、成績確定から の短い期間に間違いのないように送る必 要がありますが、今までミスがあったこと は一度もなく、本当に感謝しています。また、 不明な点はきちんと確認してくれるので、 安心してお願いすることができています。



岡山大学病院の塚原紘平助教 (救命救急科)が令和4年度 「消防防災科学技術賞 |を受賞!

AWARD

岡山大学病院救命救急科の塚原紘平助教が開発した「ポータブルスプラッシュシールド」が、総務省消防庁の令和4年度「消防防災科学技術賞《一般の部/消防防災機器等の開発・改良部門》」の優秀賞に選ばれ、11月16日に三鷹市公会堂(東京都)で表彰式が行われました。コロナ禍で救命救急の最前線にいる救急隊員を、ウイルスを含む飛沫やエアロゾルから守るための、軽量で持ち運びしやすいシールドを株式会社ハイビックスと共同開発し、製品化したものです。

塚原助教は「病院前救護の現場から着想しました。消防機関による実証評価では現場の救急隊員から『シールドがあると安心感がある』などの声をいただきました。製品化できて良かったと喜びもひとしおです。更に現場に貢献出来るよう研究開発に取り組んでまいります」と話しています。

PICK UP! UNIVERSITAS OK. IMA

ウエイトトレーニング部 地元岡山開催の 全日本パワーリフティング選手権で 個人優勝・団体準優勝!!

12月25日、ジップアリーナ岡山にて、文部科学大臣杯争奪第49回全日本パワーリフティング選手権大会が開催され、各地方予選から勝ち上がってきた17大学93人による熱い戦いが繰り広げられました!本学のウエイトトレーニング部からは17人の選手が出場。個人部門で女子52kg級の藤井紗希さん(法学部4年)、男子53kg級の小倉正太さん(工学部4年)が優勝、また団体部門では、強豪校との激闘の末、見事準優勝に輝きました。

O K A Y A M A U N I V E R S I T Y N A V I G A T I O N



大学祭(津島祭)を3年ぶりに対面開催!

FESTIVAL

11月5、6日の2日間、津島キャンパスで大学祭(津島祭)を開催しました。「おかえりなさい岡大祭~心をギュッとくっつけん祭~」をテーマに、当日は会場中が学生によるバラエティ豊かな模擬店で彩られ、岡山県内の飲食店によるキッチンカーも多数出展されました。恒例の文化系・体育系クラブの各種企画や音楽ライブに加え、会場内4箇所に設けられた特設ステージでは、各種コンテストや趣向を凝らしたパフォーマンスが披露されました。また、6日には俳優・佐野勇斗さんのトークショーやお笑い芸人・安田大サーカスHIRO&クロちゃんのお笑いライブも開催され、連日大盛況でした。

今回は、コロナ感染症対策の一環として、本学DS部が開発した「入退場人数カウントと検温が同時にできる装置」を活用し、会場内に同時に入場いただける人数を5千人に限定。2日間で1万4千人を超える多くの方にご来場いただきました。

世界初!

英国バース大学創設「気候行動バッジ」を グローバル・エンゲージメント・オフィスの 教職員が受賞

AWARD

横井篤文上席副学長・ユネスコチェアホルダー、グローバル・エンゲージメント・オフィスの原田美樹チーフ・オフィサー、津波優グローバル・アドミニストレーターが1月6日、英国バース大学が創設した「気候行動バッジ」の最初の受賞者となりました。同バッジは気候変動の緊急事態に立ち向かう価値ある貢献や先駆的な活動に取り組む教職員や学生ならびに地域、国内、世界で活躍するバース大学の戦略パートナーに贈られるものです。

横井上席副学長は「本受賞は私たち個人に対してだけではなく、サステナビリティとウェルビーイングを地域と共に全学で推進してきた本学にとって栄誉なことだと思っています。また、社会的インパクト評価の先進国でもある英国内トップレベルのバース大学から、本学グローバル・エンゲージメント・オフィスの地球社会へ貢献する取り組みに対して評価いただいたことは大



変光栄です。今後の 励みとして、さらに 地球全体のウェル ビーイングの共創に 尽力していきたい」 と述べました。

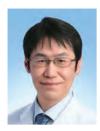
PICK UP!

R4.9.2~R5.2.1着任 岡山大学新仟教昌紹介!

がんの発生メカニズムを解明し、分子と形態の

視点を組み合わせたより正確な病理診断や、臨

床への応用を目指した研究を行っています。



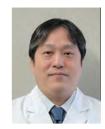
OTSUKA Motoyuki
■ 所属
学術研究院
医歯薬学域
教授

大塚 基之



研究分野 病理学/腫瘍学

山元 英崇 YAMAMOTO Hidetaka ■ 所属 学術研究院 医歯薬学域 教授



石浦 浩之
ISHIURA Hiroyuki
■ 所属
学術研究院
医歯薬学域
教授

研究分野 消化器内科学/ライフサイエンス

消化器内科学関連の臨床と研究と教育を担当しています。分子生物学と臨床を融合させた新しい「分子消化器病学」を確立して、臨床を革新し人類に貢献することが夢であり目標です。



河本陽介
KAWAMOTO Yosuke
■所属
学術研究院
環境生命科学学域
准教授



田中智博 TANAKA Tomohiro ■所属 学術研究院 医歯薬学域 准教授



林 冬惠 LIN Donghui ■所属 学術研究院 自然科学学域 准教授

研究分野 確率論/解析学

様々な確率モデルの研究をしています。特に、 無限個の粒子が相互作用しながらランダムに 動くモデルの解析を行っています。

研究分野 創薬化学/ケミカルバイオロジー

自然界には存在しない分子を自ら設計、合成して、病気を治療するための研究をしています。最近では新たながん治療としてホウ素中性子捕捉療法に注目しています。

研究分野 知能情報学/サービス情報学

研究分野 脳神経内科学/神経遺伝学

難治性神経筋疾患の遺伝子解析が専門です。

脳神経内科診療と研究の発展を目指します。

人工知能とコンピューティングパラダイムの接点について研究しています。インターネットを核としたコラボレーション基盤の先端技術の創出と社会実装が目標です。

※所属等は着任時点のものです。

大学の動き(2022年11月~2023年2月)

2022 **11**月

- 3日 資源植物科学研究所の馬教授が令和4年秋の 紫綬褒章を受章
- 23日 学術研究院環境生命科学学域の松村健太郎研究助教が 2022年度日本動物行動学会賞を受賞

12月

- 3日 「おかやまSDGsアワード2022」において 学生発案講義チームが「特に優良な取組」を受賞!
- 15日 岡山後楽園ロータリークラブから外国人留学生に 防災備蓄品の寄贈
- 17日 岡山大学統合報告フォーラム 次世代と共に拓く「ありたい未来」を開催
- 23日 岡山大学DS部と岡山県ものづくり女性中央会との 交流懇談会を開催

2023 **1**月

- 19日 「2022年キャンパスベンチャーグランプリ中国大会」 で大学院自然科学研究科の3グループが 優秀賞、特別賞、奨励賞を受賞!
- 26日 岡山大学共育共創コモンズ完成披露式典を開催
- 31日 国連貿易開発会議(UNCTAD)テクノロジー・ロジスティクス局長が来学

2月

- 2日 岡山大学SDGs推進表彰(President Award)表彰式 &取り組み発表会を開催
- 22日 ブルキナファソ出身のアブゼ・ジグマ王女に 名誉博士称号を授与

press release

木を搾る技術を開発し 木質バイオマス燃料の 製造を効率化

岡山大学学術研究院医歯薬学域病理学(免疫病理)の大原利章助教、松川昭博教授、異分野融合先端研究コアの仁科勇太研究教授、高砂熱学工業株式会社の湯浅憲課長、木村健太郎主席研究員、カスケード資源研究所の古藤田香代子所長らの研究グループは、ローラー式圧搾機を用いて木材をストローのように圧搾する事で、効率的に脱水し、水溶性リグニンを得る技術を開発しました。木材はこれまでもバイオマス発電の原料として利用されてきましたが、発電効率を上げるためにコストを掛けずに含水率を下げる事が課題でした。本技術は圧搾のみで、含水率を35%以下に下げる事ができ、新たなバイオマス発電の原料の製造技術として用いる事が可能です。

同時に採取される水溶性リグニンは抗ウイルス性等の機能性があるだけでなく、ナノ炭素など新素材の原料となる可能性が期待されます。本成果は、2022年10月22日に廃棄物資源循環学会の英文誌である「Material Cycles and Waste Management」にオンライン掲載されました。









圧搾前

圧搾後



1枚の写真から紐解く、岡大の歴史。 誰かにそっと教えたくなる…そんなエピソードとともに紹介します。 简大 OU Pictorial History

モノクローム#05



工学部開学並びに第1回入学宣誓式 1960(昭和35)年

現在では10学部1プログラムを抱える岡山大学も、開学時(1949(昭和24)年)は法文学部、教育学部、理学部、医学部、農学部の 5学部でスタートを切りました。当時、農業県から工業県への転換を図っていた岡山県では、工業系学部の設置の要望が高まっていました。県民のみなさまの熱意と2億5千万円にのぼる募金のおかげで、ついに1960(昭和35)年、工学部の新設が決定しました。

時代は進んで2023(令和5)年。地域のみなさまからの多大なるご寄付もあり、共育共創コモンズは完成しました。 ここから生まれる新たな価値を地域に還元し、これからも地域のみなさまと「ありたい未来を共に育み共に創る」 岡山大学であり続けたいと思います。

(参考:岡山大学二十年史)



岡山大学広報いちょう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発行 : 岡山大学 総務・企画部 広報課

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号 Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294 E-mail www-adm@adm.okayama-u.ac.jp

https://www.okayama-u.ac.jp

岡山大学







